

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
AM15Z016		化学I (Chemistry I)					導入教育科目 自然・科学		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	1	1	医学部医学科	前期	水3	日本語			単独						
担当 教員	氏名 下田 恵														
	E-mail shimoda@oita-u.ac.jp 内線 5606														
授業 の 概 要	主に医療人を養成するための基礎教育をねらいとする。化学は医学・医療を学ぶための基礎となり、医療人の教養となるものである。授業を通して、自ら積極的に学び取る態度と自ら問題提起し真理を追究していく姿勢も養う。そうすることにより、社会的ニーズに応えることのできる問題解決型の医療人としての素養を身につけることができる。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	エネルギーとエンタルピーについて説明できる。														
目標2	エントロピーと自発変化について説明できる。														
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							6	4							
授業の内容															
1	状態関数														
2	エネルギーとエンタルピー														
3	熱力学第一法則														
4	自発的变化														
5	エントロピー														
6	熱力学第二法則														
7	微視的变化														
8	熱力学第三法則														
9	自由エネルギー														
10	生化学と熱力学														
11	反応Gibbs関数														
12															
13															
14															
15															
ラ イ ク ニ テ ン イ グ ブ	A:知識の定着・確認		LTD (Learning Through Discussion)				工 夫 そ の 他 の	90分の授業の中程にブレイクを入れる。							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修		講義内容を必要に応じて予習する(10h)。												
	事後学修		小テストを復習する(10h)。講義ノートを復習する(15h)。												
	想定時間合計		35												
教科書	テキストの指定なし														
参考書	デイ・アンダーウッド『定量分析化学』(培風館)1982 ISBN 4563041513 ムーア『物理化学』(東京化学同人)1974 ISBN 4807900021														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
		期末試験	100%									
注意事項	出席回数が2/3以上でなければ、期末試験を受けられません。 講義はオンラインと対面で行います。(1回目はイントロダクションを行うので教室に来ること)											
備考												
リンク												
	URL											